

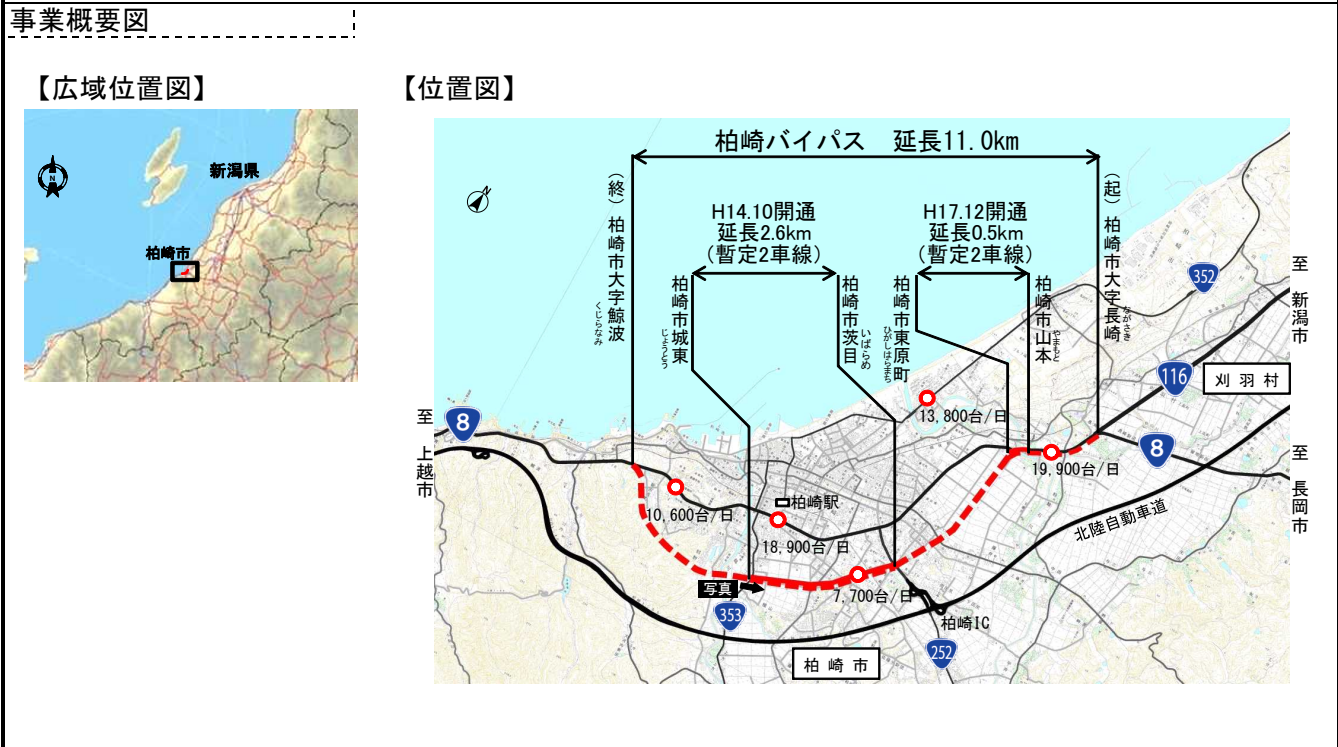
再評価結果（平成27年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：茅野 牧夫

事業名	一般国道8号 <small>かしわさき</small> 柏崎バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局						
起終点	自：新潟県 <small>かしわさき</small> 柏崎市大字長崎 至：新潟県 <small>かしわさき</small> 柏崎市大字鯨波	延長	11.0km								
事業概要	一般国道8号柏崎バイパスは、柏崎市街地の交通混雑を解消し円滑な交通を確保、広域幹線道路ネットワークの強化などを目的とした延長11.0kmのバイパス事業である。										
S62年度事業化	H元年度都市計画決定	H3年度用地着手	H5年度工事着手								
全体事業費	約826億円	事業進捗率	64%	供用済延長	3.1km（暫定2車線）						
計画交通量	17,100～35,800台/日										
費用対効果分析結果	B/C： （事業全体） 1.1 （残事業） 3.0	総費用： （残事業）/（事業全体） 317/996億円 （事業費：227/903億円 維持管理費：90/92億円）	総便益： （残事業）/（事業全体） 946/1113億円 （走行時間短縮便益：797/938億円 走行経費減少便益：115/137億円 交通事故減少便益：34/38億円）	基準年	平成26年						
感度分析の結果	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">【事業全体】交通量：B/C=0.95～1.2（交通量±10%）</td> <td style="width: 50%;">【残事業】交通量：B/C=2.6～3.1（交通量±10%）</td> </tr> <tr> <td>事業費：B/C=1.1～1.1（事業費±10%）</td> <td>事業費：B/C=2.8～3.2（事業費±10%）</td> </tr> <tr> <td>事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）</td> <td>事業期間：B/C=2.9～3.0（事業期間±20%）</td> </tr> </table>					【事業全体】交通量：B/C=0.95～1.2（交通量±10%）	【残事業】交通量：B/C=2.6～3.1（交通量±10%）	事業費：B/C=1.1～1.1（事業費±10%）	事業費：B/C=2.8～3.2（事業費±10%）	事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）	事業期間：B/C=2.9～3.0（事業期間±20%）
【事業全体】交通量：B/C=0.95～1.2（交通量±10%）	【残事業】交通量：B/C=2.6～3.1（交通量±10%）										
事業費：B/C=1.1～1.1（事業費±10%）	事業費：B/C=2.8～3.2（事業費±10%）										
事業期間：B/C=1.1～1.2（事業期間±20%）	事業期間：B/C=2.9～3.0（事業期間±20%）										
事業の効果等	<p>定性的な効果</p> <p>①災害時における交通の確保 ～中越沖地震からの教訓～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震・水害時の緊急避難路として機能し、緊急輸送道路ネットワークとして信頼性が向上。 <p>②冬期間におけるスムーズな交通の確保 ～冬期交通障害の回避～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬期間における円滑な交通の確保が期待されるとともに、安全性・信頼性が向上。 <p>③主要な観光地へのアクセス向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要観光地・施設へのアクセス性向上（北陸自動車道柏崎IC～鯨波海水浴場の時間短縮）。 										
関係する地方公共団体等の意見	<p>地域から頂いた主な意見等：</p> <p>国道8号柏崎バイパス事業促進協議会（柏崎市）より整備促進要望を受けている。</p> <p>知事の意見：</p> <p>地域住民の安全・安心の確保や地域の振興のため、事業を継続する必要がある。</p> <p>ただし、県内事業の優先順位を考え、事業を進める必要がある。</p>										
事業評価監視委員会の意見	<p>対応方針については、北陸地方整備局原案を妥当と判断する。</p>										
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>平成19年7月に新潟県中越沖地震が発生。災害時に現道の迂回ルートとして重要な役割が期待される。</p>										
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>昭和62年度に事業化、用地進捗率93%、事業進捗率61%（平成26年3月末時点）</p> <p>平成14年度：柏崎市大字菟目～同市大字城東間 延長2.6km（2/4）部分開通</p> <p>平成17年度：柏崎市大字山本～同市東原町間 延長0.5km（2/4）部分開通</p>										
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<p>これまで、延長3.1kmの部分開通を行っており、残る事業区間についても早期全線開通に向け事業を推進する。</p>										
施設の構造や工法の変更等	<p>施設の構造や工法等に変更は無いが、引き続き新技術の活用等によりコスト縮減に努めていく。</p>										

対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。